

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第 6 学年の全児童、中学校第 3 学年の全生徒（悉皆調査）

3 教科に関する調査の内容

小学校：国語、算数、理科

中学校：国語、数学、理科 ※中学校理科のみ CBT 調査で実施

4 調査日時

小学校…令和 7 年 4 月 17 日（木）

中学校…令和 7 年 4 月 14 日（月）～17 日（木）

5 調査結果（平均正答数・平均正答率）

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
昭島市	9.1/14 問 65%	8.8/16 問 55%	9.3/17 問 55%	7.7/14 問 55%	7.2/15 問 48%	IRT スコア 485
東京都	9.8/14 問 70%	10.2/16 問 64%	10.1/17 問 60%	8.0/14 問 57%	8.0/15 問 53%	IRT スコア 506
全国	9.4/14 問 66.8%	9.3/16 問 58.0%	9.7/17 問 57.1%	7.6/14 問 54.3%	7.2/15 問 48.3%	IRT スコア 503

C B T…（Computer Based Testing）コンピュータを使って受験する試験方式。

I R T…項目反応理論。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさしで比較できる。

IRT スコア…IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの。

< 中学校理科の調査について >

- 公開問題と非公開問題を組み合わせて出題。生徒 1 人あたり公開問題 10 問と非公開問題 16 問を解く構成。
- 非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題しており、生徒ごとに異なる問題を解く。



6 各教科に関する調査結果

(1) 小学校国語

【調査結果のポイント】

<正答率が高い問題>

【話すこと・聞くこと】

○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる

(大問1三(2))【正答率：市 71.9% (国 73.7%)】

【書くこと】

○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる

(大問2二)【正答率：市 81.4% (国 81.8%)】

【読むこと】

○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる

(大問3二(1))【正答率：市 79.5% (国 81.6%)】

<正答率が低い問題>

【話すこと・聞くこと】

▲目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる

(大問1一)【正答率：市 53.5% (国 53.3%)】

【書くこと】

▲目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる

(大問2三)【正答率：市 58.5% (国 61.3%)】

【読むこと】

▲目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる

(大問3三(1))【正答率：市 39.3% (国 40.8%)】

【指導改善のポイント】

【話すこと・聞くこと】

◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う。

【書くこと】

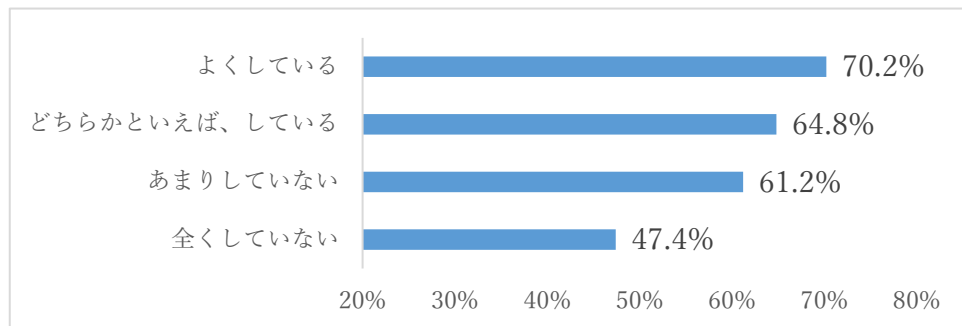
◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。

【読むこと】

◎文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりする。

<クロス集計>

児童質問紙調査「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか」の質問に対する回答と、国語の正答率とのクロス集計



★この質問に肯定的に答えた児童の方が、国語の正答率が高い。文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに関する指導の充実が重要であると考えられる。

(2) 小学校算数

【調査結果のポイント】

＜正答率が高い問題＞

【数と計算】

○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる

(大問 1 (1)) 【正答率：市 76.5% (国 78.7%)】

【図形】

○角の大きさについて理解している

(大問 2 (3)) 【正答率：市 81.8% (国 79.3%)】

【データの活用】

○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができる

(大問 4 (1)) 【正答率：市 81.4% (国 82.8%)】

＜正答率が低い問題＞

【数と計算】

▲分数の加法について、共通する単位数を見出し、加法と被加法が共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述できる

(大問 3 (2)) 【正答率：市 19.7% (国 23.0%)】

【図形】

▲基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる

(大問 2 (4)) 【正答率：市 32.0% (国 37.0%)】

【データの活用】

▲目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる

(大問 1 (2)) 【正答率：市 25.7% (国 31.0%)】

【指導改善のポイント】

【数と計算】

◎分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、既習の整数の加法に帰着できるようにする

【図形】

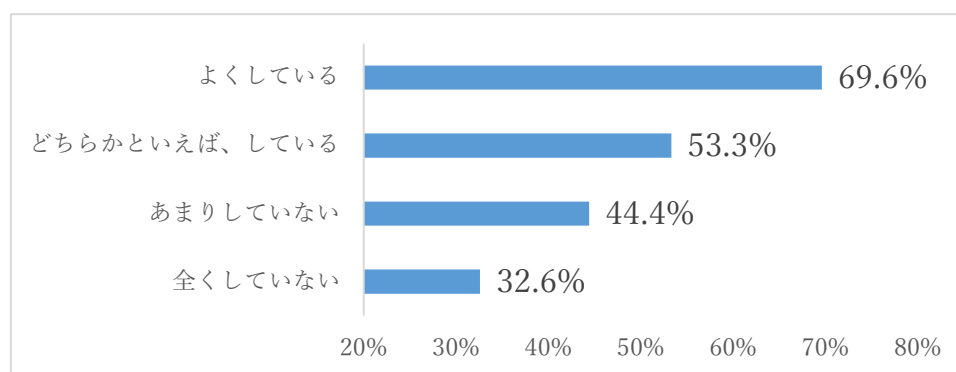
◎多角形的面積を求める際に、基本図形に分割するなど、面積の求め方を知っている既習の図形を見い出して、面積の求め方を考えることができるようにする。

【データの活用】

◎様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにする。

＜クロス集計＞

児童質問紙調査「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の質問に対する回答と、算数の正答率とのクロス集計



算数の正答率

★この質問に肯定的に答えた児童の方が、算数の正答率が高い。問題の解き方が分からないときでも、自ら考えたり、友達の考えを聞いたりしながら、粘り強く取り組めるように指導の工夫をすることが大切である。

(3) 小学校理科

【調査結果のポイント】

＜正答率が高い問題＞

【エネルギー】

○電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている

(大問 2 (3)) 【正答率：市 76.4% (国 78.0%)】

【物質】

○「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができる

(大問 4 (3) ク) 【正答率：市 64.5% (国 65.6%)】

【地球】

○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができる

(大問 1 (1)) 【正答率：市 80.0% (国 79.5%)】

＜正答率が低い問題＞

【エネルギー】

▲身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている

(大問 2 (1)) 【正答率：市 9.2% (国 10.6%)】

【物質】

▲水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができる

(大問 4 (1)) 【正答率：市 50.1% (国 50.6%)】

【生命】

▲レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができる

(大問 3 (4)) 【正答率：市 29.3% (国 29.9%)】

【指導改善のポイント】

【エネルギー】

◎観察、実験の結果や結論を、図に整理したり、言葉で説明したりするなど、知識と関係付けて理解を深める。

【物質】

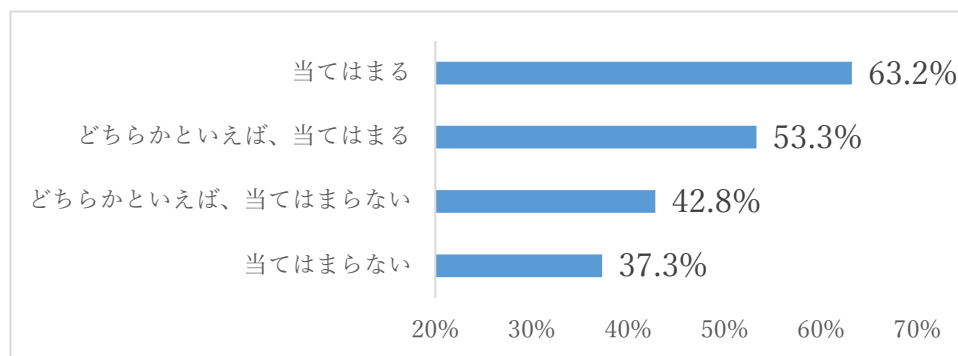
◎計画した実験方法が予想したことを確かめられるものになっているかを検討して、改善する。

【生命】

◎自然の事物・現象に働きかけて得た事実に基づいて、問題を見いだすことができるようにするために、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにする。

＜クロス集計＞

児童質問紙調査「理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想（仮説）を考えていますか」の質問に対する回答と、数学の正答率とのクロス集計



数学の正答率

★この質問に肯定的に答えた生徒の方が、理科の正答率が高い。問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想（仮説）を考えることができるように指導することが大切である。

(4) 中学校国語

【調査結果のポイント】

＜正答率が高い問題＞

【話すこと・聞くこと】

○相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる

(大問2二)【正答率：市 79.8% (国 77.9%)】

【書くこと】

○目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる

(大問1二)【正答率：市 85.6% (国 82.5%)】

【読むこと】

○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる

(大問3二)【正答率：市 89.3% (国 89.9%)】

＜正答率が低い問題＞

【話すこと・聞くこと】

▲資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる

(大問2四)【正答率：市 22.8% (国 23.2%)】

【書くこと】

▲読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる

(大問4二)【正答率：市 29.7% (国 30.1%)】

【読むこと】

▲文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる

(大問3四)【正答率：市 16.6% (国 17.1%)】

【指導改善のポイント】

【話すこと・聞くこと】

◎自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する際に、伝えたい内容が適切に伝わるよう効果的に資料や機器を活用する。

【書くこと】

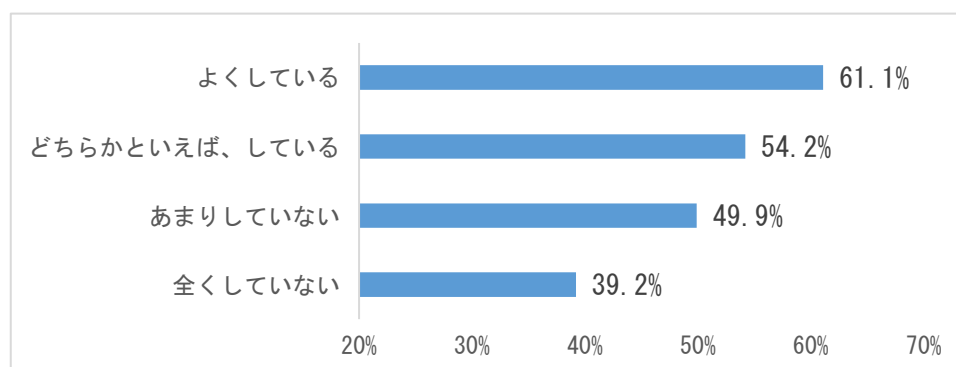
◎書いた文章を推敲する際に、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える。

【読むこと】

◎文学的な文章の構成や展開について考えるために、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握する。

＜クロス集計＞

生徒質問紙調査「国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか」の質問に対する回答と、国語の正答率とのクロス集計



国語の正答率

★この質問に肯定的に答えた生徒の方が、国語の正答率が高い。文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えることができるように指導することが大切である。

【調査結果のポイント】

＜正答率が高い問題＞

【数と式】

○事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができる

(大問 6 (1)) 【正答率：市 62.4% (国 62.8%)】

【関数】

○事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができる

(大問 8 (1)) 【正答率：市 69.7% (国 71.9%)】

【データの活用】

○必ず起こる事柄の確率について理解している

(大問 7 (1)) 【正答率：市 73.8% (国 77.4%)】

＜正答率が低い問題＞

【数と式】

▲式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる

(大問 6 (2)) 【正答率：市 26.5% (国 25.7%)】

【図形】

▲ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる

(大問 9 (3)) 【正答率：市 33.8% (国 33.2%)】

【関数】

▲一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができる

(大問 4) 【正答率：市 31.9% (国 34.7%)】

【指導改善のポイント】

【数と式】

◎文字を用いた式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるようにする。

【図形】

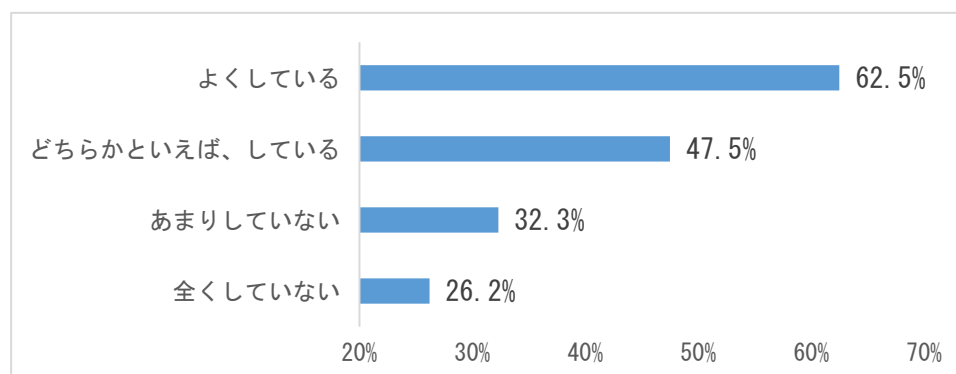
◎証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導する。

【関数】

◎一次関数について、表、式、グラフを関連付けて、 x の値の変化に伴って、 y の値がどのように変化するかを調べる活動を通して、変化の割合の意味や一次関数の変化の割合が一定であることを理解したり、 x の増加量に対する y の増加量を求めたりする。

＜クロス集計＞

生徒質問紙調査「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の質問に対する回答と、数学の正答率とのクロス集計



数学の正答率

★この質問に肯定的に答えた生徒の方が、数学の正答率が高い。問題の解き方が分からないときでも、自ら考えたり、友達の考えを聞いたりしながら、粘り強く取り組めるように指導することが大切である。

(6) 中学校理科

【調査結果のポイント】

＜正答率が高い問題＞

【エネルギー】

○収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いている

(大問 2 (2)) 【正答率：市 92.9% (国 94.6%)】

【粒子】

○気体の性質に関する知識が概念として身に付いている

(大問 4 (2)) 【正答率：市 90.8% (国 92.8%)】

【生命】

○スケッチに関する知識及び技能が身に付いている

(大問 6 (1)) 【正答率：市 71.6% (国 65.9%)】

＜正答率が低い問題＞

【エネルギー】

▲【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できる

(大問 2 (1)) 【正答率：市 10.5% (国 14.0%)】

【粒子】

▲元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いている

(大問 1 (5)) 【正答率：市 31.1% (国 44.9%)】

【生命】

▲生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いている

(大問 7 (1)) 【正答率：市 26.3% (国 34.8%)】

【地球】

▲地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できる

(大問 8 (2)) 【正答率：市 17.7% (国 18.1%)】

【指導改善のポイント】

【エネルギー】

◎考察の妥当性を高めるために、計画した観察、実験の結果から何が分かればよいのかをはっきりさせてから観察、実験を行う。

【粒子】

◎化学変化を質的・実体的な視点で捉えることができるようにする。

【生命】

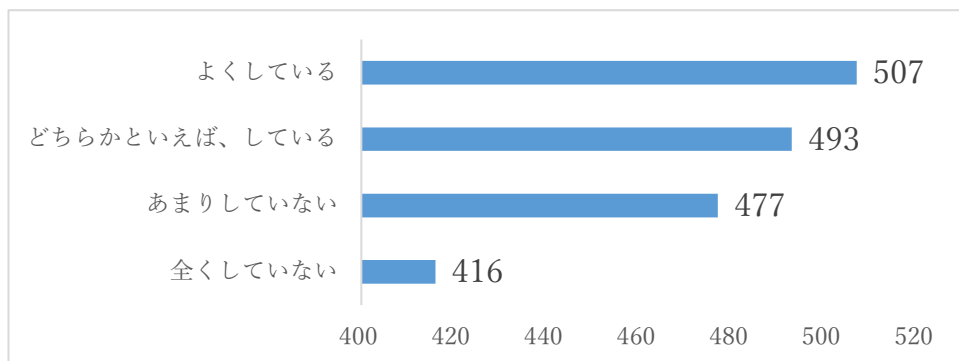
◎観察した生物の共通点と、生命を維持する呼吸の知識とを関連付けて、生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付ける。

【地球】

◎地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、地層の広がりを検討して表現できるようにする。

＜クロス集計＞

生徒質問紙調査「理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか」の質問に対する回答と、理科の IRT スコアとのクロス集計



数学の正答率

★この質問に肯定的に答えた生徒の方が、理科も IRT スコアが高い。自分や友達の学びが深まったか、新たに調べたいことが見つかったかを振り返ることができるよう指導することが大切である。